

普通期 稲作情報 第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

6月21日～7月31日の平均気温は平年より1.5℃高く、降水量は平年比125%と多く（7月上旬に集中）、日照時間は平年比140%と多い状況でした。水稻の生育は、7月上旬までの曇雨天によりやや軟弱な生育を示していましたが、7月9日の梅雨明けから晴天が続き、現在、水稻の生育は平年に比べ進んでいます。

◎品種別出穂期の予想

★夢つくし	：8月8日頃	} (6月20日田植え・平坦地)
★元気つくし（つくしろまん）	：8月18日頃	
★ヒノヒカリ	：8月26日頃	
★ツクシホマレ	：9月1日頃	

1. 水管理（こまめな水管理で、台風・高温対策を！）

- (1) 中干し終了後から落水期までは、間断かん水を行い、根の健全化を図ってください。
- (2) 幼穂形成期（穂肥の時期）～出穂期にかけては、水稻が水を最も必要とする時期です。水を切らさないよう十分注意してください。
- (3) 台風襲来時は、深水管理をして下さい。台風通過後も、水稻の水分吸収が盛んになるため、数日間は水を切らさないよう注意してください。

2. 病虫害防除

- (1) 葉いもちの発生は少ない状況ですが、一部のほ場で、夢つくしや元気つくしに発生が見受けられます。発生を確認したほ場では、早急に補正防除を徹底してください。
- (2) 海外飛来性害虫のトビイロウンカ、コブノメイガの主な飛来日は6月28日、7月5日の2回ですが、トビイロウンカの発生は平年よりやや少なく、コブノメイガは平年並の状況です。トビイロウンカは秋口から急に増殖することがあるので、今後もほ場でのウンカ類発生状況に把握に努め、適期防除を行いましょ。トビイロウンカ第2世代幼虫の防除適期は8月下旬です
- (3) カメムシ類はやや多いと予想され、耕種的防除法として畔草刈りを出穂2週間前までに実施してください。出穂直前に除草すると、畦草に生息していたカメムシを本田へ追いやることになるので逆効果となります。

◎基幹防除（必ず実施）

（１）出穂期防除

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	ダブルカットバリダ トレボン粉剤 3DL	いもち病、紋枯病、 カメムシ類、ウンカ類	出穂 5 日前まで 収穫 45 日前まで	3～4kg/10a
液剤	ダブルカットバリダ フロアブル	いもち病、紋枯病	穂揃い期まで	1000 倍
	キラップジョーカー フロアブル	ウンカ類、コブノメイ ガ、カメムシ類	収穫 14 日前まで	

（２）穂揃期防除

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	キラップ粉剤 DL	ウンカ、カメムシ類	収穫 14 日前まで	3～4kg/10a
液剤	キラップフロアブル			2000 倍
粒剤	キラップ粒剤			3kg/10a
粉剤	スタークル粉剤 DL		収穫 7 日前まで	3kg/10a
液剤	スタークル液剤 10			1000 倍
豆粒剤	スタークル豆つぶ			250g/10a

※スタークル剤については、ミツバチへの影響を回避するため、必ず稲の開花が終了してから使用して下さい。

◎稲こうじ病対策

前年に稲こうじ病の発生がみられた圃場では、下表を参考に防除を行ってください。

薬剤名	防除時期	散布量	備考
ドイツボルドー A	出穂 10 日前まで	60～150ℓ/10a	倍率 2000 倍

※ドイツボルドー A の散布時期は出穂前 10～20 日とし、高温による薬害（葉焼け）を避けるため、夕方の散布を行ってください。

3. ツクシホマレ穂肥施用の目安（6月20日平坦地田植えを基準）

第 1 回目の穂肥	NK化成 2 号 20kg/10a	8 月 12 日頃
第 2 回目の穂肥	NK化成 2 号 10kg/10a	第 1 回施用から 7～10 日後